

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

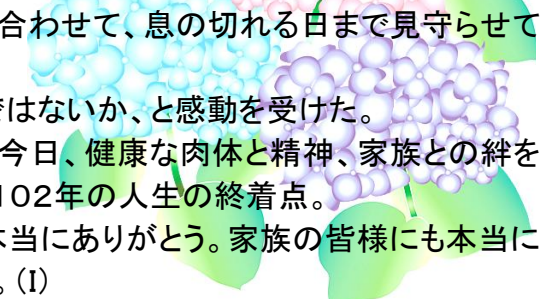
老いの姿から学ぶ ～ 102歳の大往生・平穩死 ～

1本の電話が入った。「102歳になる祖母を自宅で静かに安らかに死なせてあげたい。自分は勤めがあり、昼間ずっと傍にいる訳にはいかないが、都合のつく限り世話を続けたい。家族が留守の間、誰か見守ってお世話をして下さる人はいませんか？」という相談内容だった。

介護保険制度では、ヘルパーが関われるのは短時間限定である。そこで、長時間のお世話に最適な家政婦さんを紹介した。Hさんの体に負担をかけたくない介助部分(全身清拭や排泄介助等)は訪問介護サービスを利用し、二人の力で息を合わせて介助する。

102歳の今まで、大病もせず、ここ2年間は栄養剤(ドリンク)のみで元気にデイサービスに通うことが出来ていたのに、1週間程前から言葉が出なくなり、口から飲むとむせてしまうようになったのだ。意識ももうろうとしており、病院で受診したが、あえて胃ろうの手術など治療を勧められず、自然な形で在宅療養となった。幸い、訪問診療を担当して下さる先生もあり、約1週間、本当に穏やかな表情で過ごせた日々だった。呼吸状態と全身の様子に注意を払いながら、家族と共に力を合わせて、息の切れる日まで見守らせて頂いた。

関わったスタッフは、皆、これぞ自然な形の老衰による自然死ではないか、と感動を受けた。病院の中で管につながれて亡くなっていく人がほとんどである今日、健康な肉体と精神、家族との絆を持ち続けた人であってこそ、迎えられる最後の姿であったと思う。102年の人生の終着点。身を呈して、私たちに平穩死の有り様を教えてくださいました。本当にありがとうございます。家族の皆様にも本当に感謝いたします。Hさんのご冥福を心からお祈りいたします。合掌。(I)



《笹の葉さ～らさら/ナイス・キッズ》

7月7日は七夕。キッズでは、短冊に願い事を書いて飾りました。笹に短冊を結んでいると、いつの間にかMさんも一緒に…。気がつくと、愛宕の家の玄関が笹飾りの作り方教室に変身です。「おばあちゃんも80年前にこの飾りを作っていたのよ」の言葉に「えっ、80年前!?」子ども達の目もまんまる。



日本古来からある伝統行事を子ども達とお年寄りと一緒に味わえるっていいなあ～♪と思うひとときでした。



《5本指の靴下/ナイス・デイ》

認知症を患うTさん。歩行中、突然、腰が抜けた。ベッドに横になってもらい、体温・血圧を測り、全身状態を確認する。38.8度の熱発。夕方、病院を受診してもらった。結果、両足の指間には多数の小さな水疱があり、どうやら、そこからバイ菌が入ったらしい。翌日には熱も下がり、経過も良好。

当然、入浴後の処置の要望が入った。足の指間を消毒、ぬり薬、包帯で保護…。5本指の靴下を履くという再発防止策も始まった。

気の短いTさんからは「早よやらんか～」「いつまでやっとな～っ！」とスタッフに厳しい言葉が飛んでくる。それでも黙々とTさんの靴下に1本1本丁寧に足の指を入れていく。時には蹴りが入り、頭を叩かれることもしばしば…。Tさんにしてみたら入浴後のその数分間は苦痛以外の何ものでもなかったに違いない。



悪化や再発を防ぐ為には、何がなんでも処置と5本指の靴下を履いてもらわねば…。でも、Tさんには再発防止の意味は分からない。だからこそ、苦痛な時間を、冗談を言って笑わせたり、他のことで気をそらせ足に神経が集中しないようにしてみたり…と試行錯誤している。

《7月の利用状況/S・O・S》

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
6	8	7	7	8	5	8

(数字は定期のご利用者数)

☆ナイス・ケア(定員設定なし) 新規・追加の受入可

☆ナイス・ホーム(定員12名) 只今、登録者9名

★愛宕の家(定員10名) 入居者10名(満室)

☆募集中 / ★満員

《水分補給/ナイス・ケア》

これから夏本番。暑さで体力を奪われ体調を崩すこともあります。訪問先では室温を調整したり、利用者さんに水分を勧めたりしています。

中には、トイレの回数が増えることを気にして水分を取りたがらない人もいます。サッとトイレに行けるのなら苦労はしない…そんな利用者さんの気持ちが分からない訳ではありません。しかし、体にとっての必要性を考え、水分を取れるような対応や取り組みをしています。反対に、持病により水分量を制限されている方もいます。そういう方には水分を取り過ぎてしまわないような配慮が必要です。

「口うるさいなあ」と言われながらも、私達ヘルパーは、利用者さんの既往歴を念頭に置き、どう声をかけるべきなのかを考えます。



《夏に半てん???/愛宕の家》

暑がりの奥さんと寒がりの旦那さんのTご夫妻。二人は同室で生活している。ある日、心地良さそうに扇風機の風を受けている奥さんの隣で、旦那さんは半てんを羽織って寝ていた。「うん???」と、一瞬、目が点になる。思わず、「寒い?」と二人に聞いた。額に手をやるが熱はない。体はしっとり汗ばんでいた。「じい様が『寒い』と言うから着せた」と話す奥さん。「寒い!」と言い張る旦那さん。

高齢者の体感温度は私達の感じる温度とかけ離れることがある。室温に適応する能力も低下するらしい。そう考えると、旦那さんが羽織った半てんにも合点する。

寒いと感じるのは、扇風機の風?梅雨特有の湿気?...思いを巡らせる。その人がなぜ寒いと感じるのか。そう感じる原因も考えなきゃいけない。旦那さんにタオルケットを1枚多く用意することにした。適切な調整を願う。

《見極めが肝心/ナイス・ホーム》

「通い」に行く日の朝。「おはようございます。出掛ける準備出来ていますか～」と訪問すると、居室から、「え?もう行くの?お休みしちゃダメ?」とYさんの声が出た。……まだベッドの中に居る。「昨日、『明日はホームに行く日だからね。』と伝えておいたのに…」と多少なりとも時間の融通がきき、その場・その時に合わせた対応が検討できる小規模だからこそ、「眠たいのかな。行きたくないなら、お休みして昼の訪問を調整しようかな。それとも準備ができる頃、また訪問した方がいいのかな。」とついつい考えてしまうのが悩みのたね。

本人のその時々のお思いをどこまで受け入れるべきなのか、受け入れすぎることによって反対に生活リズムを崩してしまうことになるのではないかと、その見極めが難しいところであり、一番大切なところ。

結局、その日は再度訪問し、予定通り(?)「通い」へ来られました。「何度も来てもらって悪かったね。」とハニカむYさん。「ほんとだよ～。ちゃんと起きてくれたら、2回も訪問しなくて良かったんだから～!今日は調整できたから特別だよお～♪♪」と冗談交じりに笑って話しておりましたとき。



《看護師コーナー/バイタルサインの一つ、呼吸についてパート2:呼吸音》

「ムセとらんから食べさせてもええだろ」と言われることがある。確かに、私たちがムセた時のように、「ゴホン、ゴホン」という反応は殆どみられない。誤嚥した症状はすぐに出るわけではない。数時間後から数日後、熱が出れば、水分補給だと思って飲ませる。これまた上手く飲んでるように見える。これを、ムせていない誤嚥＝「不顕性誤嚥」という。見た目はムせていないけれど、実はムせていて、誤嚥していた…。この「不顕性誤嚥」、意外に多いのだが、意外に知られていない。数時間から数日経過して熱が出てきたり、痰が増えたりして気付くことが多く、慌てる。その一口を誤嚥しているかどうかを判断するには呼吸状態や肺の呼吸音、首の聴診が判断材料となる。この判断材料には聴診器が必須の道具となる。



聴診器は心臓の音、呼吸の音、お腹の音、色々な音を耳に運んでくれる。その音から起こりうる症状を予測し、早期に対応することができる。もちろん、かなりの技術と知識が必要となるのだが、極めて優しくかつ簡便に得られ、相手とのコミュニケーションにも役立つ最高の道具であり、医療者に求められる技術・知識だと思っている。(私はまだ卵にもなれないけれど…)音が奏でるサインを逃さない人になりたい。

ちなみに、食事に時間がかかる、口を開かない、口に溜める、よだれが出る…などの症状があれば、「ムせていなくてもムせている」と疑うことをお勧めいたします。(T)

《お知らせ》

毎年恒例になっている「夏の宴」を今年も開催いたします。

利用者さん、ご家族、事業所・地域の方、介護に興味を持っている方…等々に参加頂ければと思います。

「笑顔・元気・感謝」を合言葉に、楽しい2日間になるよう、只今計画中です。

開催日:8月14日(土) 15日(日)



《編集後記》

あるスタッフによると、事務所で仕事をしていると、近づく足音でどのスタッフが来たのか分かり、「疲れている?」とか「良いことあった?」と感じるらしい。じっとしているからこそ、気づくことがあるのだろう。足音や気配から体調や感情は意外に伝わりやすい。

自宅でスタッフの訪問を待っていて下さる利用者さんにも同じことが言えるのではないだろうか…と思う。私が利用者さんなら、重い足音より、爽やかな足音で来て欲しい。そんなことを意識しながら、訪問する際は、軽やかに清々しい気持ちでドアを開けたい(M)